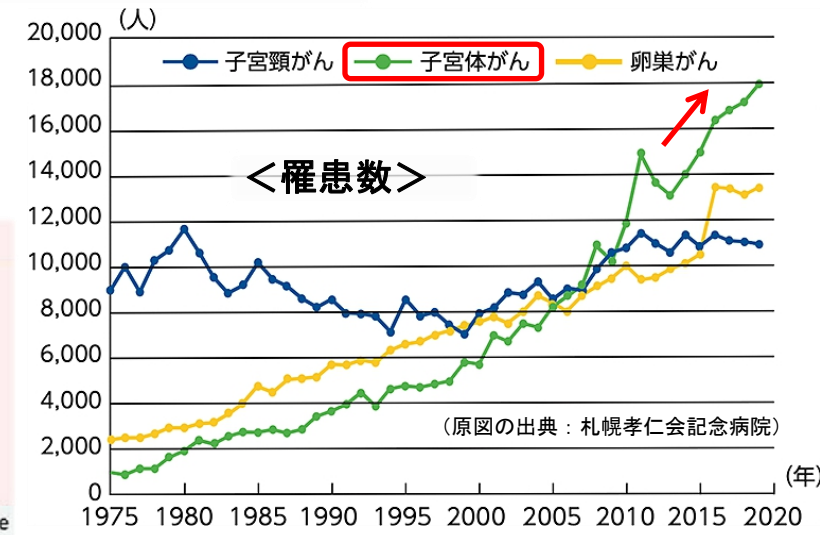


子宮体がんを防ぐための基本的な心構え

過剰の脂肪組織が、閉経前後のエストロゲンを増やすとともに、メタボリックシンドロームの各種症状を悪化させ、子宮内膜の細胞外環境を悪化させ、発がんに至る。



肥満
Obesity

visceral adipose tissue
内臓脂肪組織

systematic
metabolism
全身代謝



Sex hormone
estrogen ↑
エストロゲン
上昇

Hypothyroidism
and Lipid profile
TC ↑
TG ↑
LDL-cholesterol ↑
LDH-cholesterol ↓

Adipokines
leptin ↑
visfatin ↑
resistin ↑
adiponectin ↓
vaspin ↓

Insulin resistance
Hyperglycaemia
インスリン抵抗性
高血糖

甲状腺機能低下症
と、脂質プロファイ
ルの悪化

アディポカイン
の組成悪化

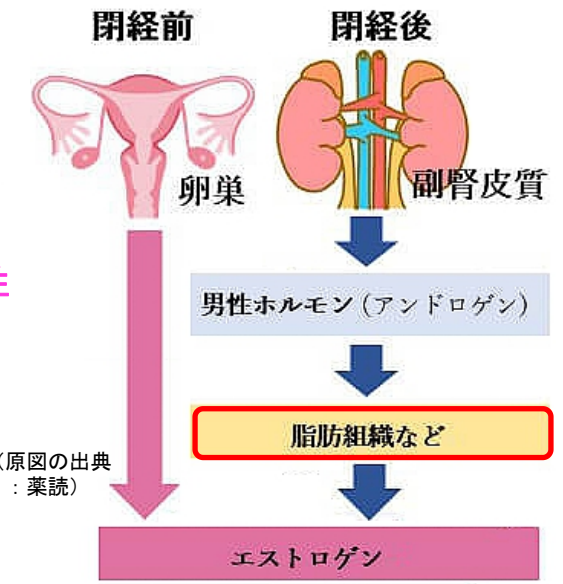
(原図の出典: Journal of
Translational Medicine volume
21, Article number: 94 (2023))

EC
Endometrial cancer
子宮内膜がん

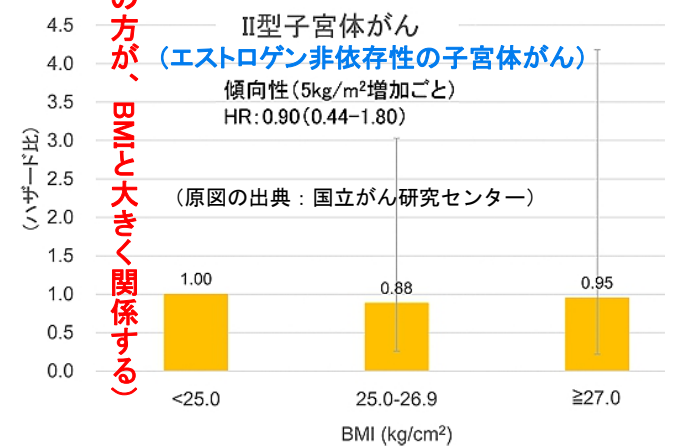
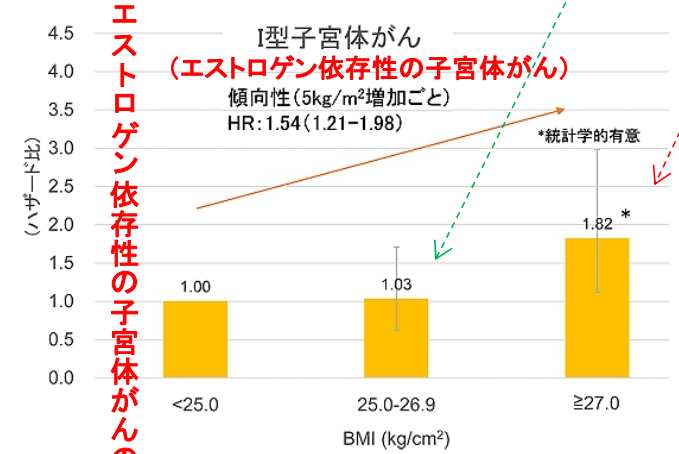
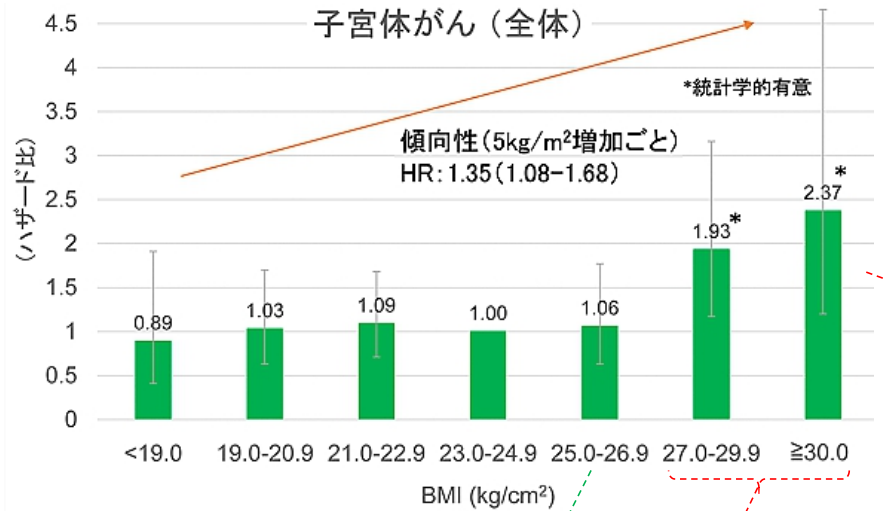
Weight loss
Bariatric surgery

Dietary interventions
mediterranean diet
ketogenic diet

Drugs
statins
metformin



子宮体がんを防ぐには、内臓脂肪を減らすことと、発がん性の高い性ホルモン代謝物を作らないこと。



BMI が27の
身長と体重は、
身長=158 cm
体重=67.4kg
計算式
67.4 / (1.58 * 1.58)
= 26.99...

これを超えると、
急にリスクが高
まっていく

BMI が30の
身長と体重は、
身長=158 cm
体重=74.9kg
計算式
74.9 / (1.58 * 1.58)
= 30.00...

かなり高リスク
の状態である

エストロゲン依存性の子宮体がんの方が、BMIと大きく関係する